

令和8年度 愛知教育大学入学試験問題  
標準的解答例または出題の意図及び評価の観点

【前期日程】

科目名：総合問題（福祉コース）

---

I 出題の意図

社会現象に対するデータに関して、データを読み取り、その上でデータ上の変化の背景にある社会的変化を推測し、記述する能力をみる。さまざまな解釈が可能なデータに対して、特定の科学的事実と解釈の一致をみるというよりも、解釈や推測の内的整合性と記述の文章力をみる。

標準的解答例

自分の趣味をもちのんびりと余生を送りたい人と、できるだけ自分の仕事をもち続けたい人は、1973年にはともに20%だったが、2018年には前者が後者の約2倍の割合となった。第一次産業就業者の減少と第三次産業就業者の増加により、給与生活者が増えたことで定年がより明確となり、定年退職後にひとまず無職となる人が増えた。また、平均寿命の伸長により多くの人が長い老後を過ごすことになった。これらの背景から、「仕事」や「老後」の捉え方が変化し、働き続けるよりものんびり過ごす「老後」がイメージされやすくなったと推測できる。(248字)

## II - 問1

### 出題の意図

文章を適切に読解し、ある状況とそれが生じる背景やプロセスを適切に整理し、記述する能力をみる。

### 標準的解答例

1970年代、脳性麻痺は早期にリハビリを開始すれば93%が完治するといった情報が、根拠もなく信じられていた。そして当時、母親には育児の責任が一手に課せられていた。このような時代背景にあつて、母親としては、子どもの幸せを願い、辛いと分かっているでもリハビリを続けざるを得なかった。母親も障害当事者と同様に、時代の知のパラダイムや人々の信じているものに影響され、苦しい思いをしていたという点で、被害者であったといえる。(202字)

## II-問2

### 出題の意図

文章を読んで得られた知識や視点を活かしながら、想像力を発揮し、自身の認識を深め、その認識を記述する能力をみる。

### 標準的解答例

「医学モデル」の枠組みにおいて、知的障害は個人の知的能力に基づく障害として考える。そのため、損なわれている個人の知的能力を改善することが、障害に対する解決策となる。例えば、知的障害児が通常学級の授業進度についてくことができない場合、「医学モデル」では、学習時間や課題を増やすことによって、その知的障害児個人の学力を向上させることが解決策として想定される。一方、「社会モデル」では、障害は人間と社会環境との間にあるものとして考えるため、社会環境の側を改善することも解決策となる。上述の例では、その知的障害児の能力に合わせた授業カリキュラムを学校側が用意することも解決策として検討される。(292字)